

茨城県ひたちなか市立東石川小学校（学校長 木下正善）

実施日	平成19年10月24日（木）	時間	午前9時30分～午後1時30分
実施場所	多目的室，各6年教室，体育館	対象/人数	6年生90名
担当教諭	宇留野 美恵子	ファシリテーター	根本 久美子
講師	チョン・ゴク・クン・アン（ベトナム・留学生） 周 悦（中国・留学生） ジョン ミン（韓国・留学生）		

活動内容

ベトナム・韓国・中国のお国の紹介（国旗，遊び，お金，スポーツ，食べ物，言語，服装，動物など）
 民族衣装の試着体験，写真撮影
 ワークショップ「もしも世界が100人の村だったら」

児童の感想

・3人の先生方と交流して，それぞれの国のことをいろいろと知ることができました。今まで知らなかったことや日本との文化の違いがたくさんあって驚きました。チマチョゴリやアオザイなどの民族衣装も着ることができてとてもうれしかったです。ベトナムや中国，韓国に行ってみたくなくなりました。

・100人村では，世界の人口，世界の不平等さを学び，「助けられるなら助けたいけどすぐにはできない」ことを知り，一人一人が考えて協力しなければならぬことを知ってよかったです。

・先生方のお話を聞いて，他の国ではまだ戦争をしている国もあり，たくさんの方が死んでいることを知りました。私は，進んでユニセフ募金に協力して貧しい人々を救いたいと思います。また，日本はもう戦争を起こさないようにしたいと強く思いました。

先生の感想

・ベトナム・中国・韓国の方々との交流では，各国の文化や流行しているものについての話を直接聞いたり，写真や具体物を見たりすることができ，児童にとってとても新鮮であった。また，民族衣装を着て写真をとる体験もその国への親近感をもつきっかけとなった。アジアの近隣諸国という身近な国々であるが，言語・宗教・習慣・文化などの違いに驚きや感動があり，関心がさらに高まったようである。また，講師の方々が大学生ということで，年齢も近くフレンドリーに接することができた。「世界がもし100人の村だったら」のワークショップでは，世界の富める国と貧困にあえぐ国の実態を飲めるジュースの量で具体的に知ることができた。そして，豊かな国の子どもは，貧しい国へジュースを分けてあげたいとい

う気持ちを素直にもつことができた。そのような気持ちをもつことから国際理解は始まるということを教えられた。

成果と課題

- ・普段なかなか接する機会がないアジアの国の方々との交流は，子どもたちにとって大変有意義であった。身近な国でありながら，日本とは違う部分がたくさんあることに気づくことができた。
- ・自分の国が幸せになるためには，隣の国や交流している国も幸せにならないと成立しないという国際理解における大切なことを学ぶことができた。
- ・年間を通して，ワールドキャラバンを活用することができれば，より深い国際理解につなげることができるであろう。

